

# 外出控ええ？ 3割が認知機能低下

A1303

コロナ禍で外出を控えると、お年寄りなどのような影響があるのか、筑波大の久野譜也教授（健康政策）らが調べた。昨年11月時点で、60歳以上の3割近くに認知機能の低下がみられた。5月と比べ、割合は約2倍に増えていたという。

調査は北海道や埼玉県、京都府などの5市町に住む60歳以上の約4700人に郵送で実施した。昨年1月までの「コロナ前」と11月時点の状態について尋ねた。外出や運動習慣、もの忘れが気になるかなどについて選択式で答えてもらった。

回答を分析し、コロナ前と比べて理解や判断など認知機能の低下があると

## 筑波大教授 60歳以上調査

判定された人は、11月時点で約27%にあたる約1300人。5月の調査では約13%が低下していて、割合は2・1倍に増えた。

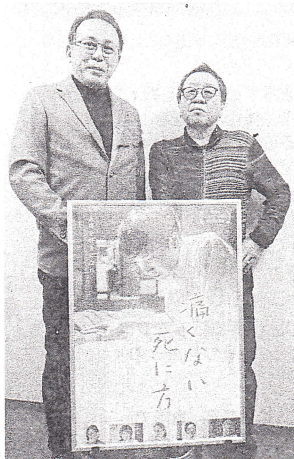
久野さんは昨春の緊急事態宣言が解除された後も、大半のお年寄りの活動は元通りになっていないと指摘。運動不足や会話の減少によって脳への刺激が減り、心身に悪い影響を与えているとみている。さらに心配されるのが、感染者が増えた秋冬の「第3波」の影響だ。「春以降に要介護認定を受ける人が増えることが心配される。感染予防をしながら、どう地域活動の場を継続していくか。工夫が求められる」と話す。

(編集委員・辻外記子)

## 尼崎の在宅医・長尾和宏医師の著作を映画化 高橋伴明監督「痛くない死に方」3月5日公開

尼崎で在宅医療を手掛ける長尾和宏医師(62)の著書原作とする高橋伴明監督の最新映画「痛くない死に方」が3月から関西で公開される。

高橋監督は「65歳ごろから死を意識するようになり、関連する本を読み始めた。長尾さんの本を読み、企画を説明するよりもシナリオにした



原作・医療監修の長尾和宏医師(左)と脚本も手掛けた高橋伴明監督=2月5日、大阪市内で

方が早いと着手しスラスラ書けた」と話す。長尾医師は「2年前の春に、築地本願寺で講演した時、監督にお会いして、まさか自分の本が映画になるなんて驚いた。その夏、東京で始まった撮影には8割立ち会ったぞうだ。

在宅医として働く河田柄本佑が、長尾医師をモデルとする先輩の

長野医師(奥田瑛二)に学びながら成長していく物語。未熟な河田が担当した患者・大貫(下元史朗)と最後に登場する本多(宇崎竜童)の臨終場面の対比が鮮烈な印象を残す。

完成した作品を見た長尾医師は「泣きました。台本の意味が映画を見てわかった。監督の頭には最初からこの映像があったんですね。」

公開は3月5日(金)からテアトル梅田、なんばパークスシネマ、神戸国際松竹ほか。12日(金)から塚口サンサン劇場。

HSANOFAMILY  
2021.2.19